

たわやがトカラ情報

十島村教育委員会
〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号
TEL 099-227-9771

一隅を照らす十島の教育

12月…「フェリーとしま」ドック入り

十島村教育長 有村 孝一
毎年のごとく、11月は皆さんよくご存知のとおり「フェリーとしま」がドック入りしていました。その間は、2回ほど代替船として「みしま」に運航してもらいました。11月25日やや小雨が降る中、谷山にあるドックの現場を見る機会がありました。今回はその感想を述べてみたいと思います。



現場に着き、船長の案内で少し進むと、見慣れた「フェリーとしま」の船体が見えてきました。台船に乗せられた「としま」は、通常は水面下にある部分も見ることができて、全長85.8m、全幅14.6mの船体が、いつもより大きく感じられました。周りの重機なども自分の想像をはるかに超える、スケールの大きいものばかりでした。

船に近づくとその大きさは測り知ることができず、自分の存在が大変小さく、その場にいる感覚がなかなかつかめませんでした。すでにペンキも塗り終わり、明日は海中に戻すということで、今日が一番きれいな状態だという説明を聞くと、本当に「フェリーとしま」が美しく新造船のように思えました。船底の方を見ていくと、横揺れ減少装置（フィン・スタビライザ）の格納してある様子や、水深を測る装置などを見ることができました。船尾に回ると大きなスクリューが2基、ピカピカの状態で見ることができました。その横には方向舵がこれも2基。あの荒波をぐんぐん進んでいく様子が目に浮かびます。その後、船内に入りました。船内では、船の乗組員も一緒になって、作業員がそれぞれの持ち場で働いていました。多くの部品が並んだ機関室など船の心臓部も見回りました。船外に出て、台船の上から250mもある錨の鎖を見ました。七島灘の荒海を乗り越えるために、通常の仕様より1ランク上の部品を設置してあるとのこと。私たちの見えないところで様々な工夫や仕組みが凝らされ、今度から「フェリーとしま」の見方が少し変わったかなと思いました。今年度のドックは5年に一度の中間検査で、何千という部品の検査が細部に亘って行われました。その一つ一つの工程がすなわち、皆さんの安全につながっているわけです。12月になるとトカラの海を颯爽と進む、新たにメンテナンスされた美しい「フェリーとしま」を目にすることでしょう。



☆来年の新成人を祝う会☆

- 日時：平成27年1月12日（月・祝日）
午前10時～正午
 - 会場：十島村役場本庁 4階会議室
 - 対象者：9名
 - 参加者：新成人及びその親族、新成人の恩師、村長・教育長以下各課役場職員、トカラふるさと会、十島村民
- *会の様子は、テレビ会議システムを通して各島（コミセン又は住民センター）で映像で見ることができま。



◇県図画作品展の特選作品◇



「すきなショベルカー」
宝島小3年 福島嘉津穂



「風にゆれるバナナの木」
宝島小4年 平田一華

灯 シリーズ—十島の学校にやってきて 平島小学校諏訪之瀬分校小学校1年 日高 涼風

ぼくは、6さいの九月にすわのせじまにひっこしてきました。そして4月に1年生ですわのせじまぶんこうにゆう学しました。にゆう学しきでは、ちょっときんちょうしました。でも、へんじとあいさつは、きちんとできました。学校では、おにいちゃんやおねえちゃんがいっぱいあそんでくれます。」べんきょうは、さんすうがすきです。きゅうしょくもおいしいです。そしてかん字がいちばんすきです。たくさんのかん字をおぼえて、かん字はかせになりたいです。



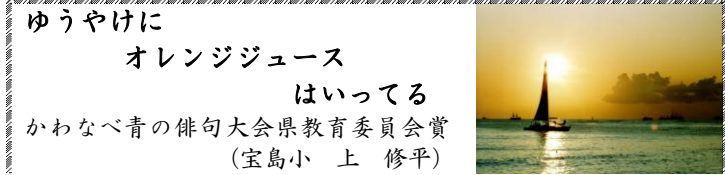
【子どもたちの作品】 ①

「働くことの大切さ」

宝島中学校小宝島分校1年 森 文音
(平成26年8月8日南日本新聞ひろば欄掲載)
「どんな仕事するのかな。」4泊5日の十島村連合職場体験が始まった。私はニシムタで、お世話になることになった。ニシムタはいつも家庭で利用している、そこはどのような仕事をしているか知りたかったからだ。1日目。私は緊張しながら店に入った。店長さんの指示を聞き、店内の掃除をした。ずっと立ったまま同じ仕事をし

て、とてもつらかった。2日目と3日目は、セールの日だった。2日間とも商品を段ボールから出して棚に並べる作業をしたり、お客さんの手に届きやすいように商品を前に出したりした。この仕事は、高いところに商品を丁寧に並べることが難しかった。少しくらい手を抜いてもいいかなと思う自分が、心の中にいた。しかし、私が並べ、前に出した商品をお客さんが買って来て、うれしい気持ちでいっぱいになった。

この職場体験学習で、働くことの大変さやうれしさ、大切さを知る事ができた。また、当たり前のように利用している店でもたくさんの人の工夫や苦勞があることを感じた。



絆 シリーズ—山海留学生として学ぶ ニュージーランド在住 中学2年 畑野 陸斗 (平成26年3月まで平島中学校に在籍)

ぼくは、3年前、平島に来ました。きっかけは、母親がすすめてくれたからです。山海留学に来てよかったことが2つあります。1つは、人前で話せるようになったことです。それは、弁論大会や学習発表会など人前で発表することが多くなったからです。もう1つは、体力がすごくなったということです。平島は、坂が多く、範囲が狭いので、歩く回数が多くなったからだと思います。平島に来てできるようになったことがあります。まずは、休まず毎日学校へ行けるようになったことです。毎日、学校が楽しく進んで行けるようになりました。また、友達ともたくさん遊べるようになりました。平島の友だちは、元気が良く、いつも外で遊びます。友だちの大切さを学べたと思います。3年間の思い出も数えきれません。特に3つあげれば、1つは運動会です。自分たちで踊るものを決めて練習します。踊り終わった後の達成感がすごくありました。みんなで力を合わせて頑張ったことが思い出されます。二つ目は、学習発表会です。みんなで地域の方々を喜ばせることができました。全体劇では、ひとり一人セリフを覚え、会場を盛り上げたことが思い出されます。三つ目は、1月にあったカセグウチです。福德神にすみをぬられる行事で、子どもたちはすみをぬられないように、福德神に水をかけて逃げ回ります。これは忘れられない思い出となりました。



平島で経験したこと、学んだことをこれからの生活に生かしていきたいです。

【子どもたちの作品】 ②

「みんなでやきゅう」

宝島小学校2年 今村 賢人
(平成26年10月25日南日本新聞「子供のうた」掲載)
ピッチャーがボールをなげる
バッターがバットをふる
カキーン ビューン

高く遠くとんでいった
走れ 走れ
ボールがかえってきた
ぼくのチームに点が入った



《インフルエンザの予防を！》

秋から冬はあっという間です。トカラ列島も冬を迎えています。インフルエンザの予防対策は万全ですか。予防接種は大切ですが、完璧ではありません。次の5点にも留意しましょう。

- 外出時のマスク
- 帰宅時の「手洗い」「うがい」
- 十分な栄養と休養
- 室内の加湿と換気
- 咳やくしゃみをおさえた手、鼻をかんだ手の手洗い



十島村の小・中学校からのメッセージ ③4

宝島小学校 教諭 後藤 豊仁
鹿児島から私の住んでいる宝島まで、約13時間かかる。週2便のフェリーは唯一の交通手段であり、物資の供給手段でもある。島の人口は120人余り。コンビニ、や理髪店、食堂等はなく、あるのは時間指定のある売店だけだ。不便この上ないと思われる環境だが、そうであるからこそ「こうしよう」という知恵が生まれ、その知恵を実行するための技量を身に付けようと努力することができる。

赴任当初、エアコンの設置で困った。買った電気店でやってもらうのが至極当然のことだが、ここではそうはいかない。途方に暮れていると、出張員の方が手際よく行ってくれた。Iターンの方を連れてこられていたのは、一人でも多く技術を身に付けることが必要だからだ。自分でできることは自分でする。できないときは、島民同士で協力する。これがこの島での基本だ。単身で赴任した私も、この島で生活することにより、多くのことを学ばせていただいている。学ぶことで適応し、それが自分の成長にもつながっているように思う。きっと宝島に赴任していなければ、当たり前のことを当たり前に感じ、そのことに少しの疑問も持たずに生活していたことだろう。

宝島の子どもたちもたくましい。少年団活動や子ども会、地域行事、スティールドラム練習と、休む間もなく活動している。ともすると、子どもは他と比べてたり比べられたりしがちだが、ここではひとり一人が島の「宝」であり、掛け替えのない存在だ。それが、一層子どもたちのやる気を高める。尊敬できる大人たちの背中を見つめ、やさしいまなざしで見守られていることを肌で感じながら、子どもたちは、今日も豊かな自然に包まれ、子どもらしく成長している。

教職員仲間である「あなた」への
私からのメッセージ

赴任当初は不便に感じますが、十島村はインターネットが普及し、一昔前と比べ、格段に生活環境が整っています。